

先週の回答



「おっ、すき焼き。しかもシモフリ」

意気揚揚と帰ってきた友子さんは家族が囲む食卓のすき焼き鍋に目を輝かせた。大きなトランク2つと、シヨルダ1バック3つは玄関に置いたまま。

「何度出戻りや気がすむんだ」父、友太郎は苦り切った顔で呟いた。

「たったの3度目よ」と友子さんは悪びれる様子もなく牛肉(シモフリ)を口にする。

「ちよつと来なさい」立ち上がる父。

「すき焼きの途中」と友子さん。

「中止しなさい」

二階の来客用和室の床の間を背にした友太郎はむずかしい顔で、

「お前の結婚相手は、もうこの世には残っていない。」

「くはないわよ」

「いる？」

「ヒネ勝よ。ほら、うちの隣に住んでいた、あたしがいじめられると必ず助けてくれたヒネ勝次郎よ。『あたいたい大人になったら、勝つちゃんのお嫁さんになるんだ』って言ったら『そんなこと勝手に決めんなよ』ってほった赤くしたの憶えてるでしょう？」

「知らん」

「そのヒネ勝に会ったのよ偶然。電車の中で、二〇年ぶりに。そしたら彼いまだに独身なんだって。あたしのことが忘れられないのよ、きつと」

「……」

「神さまのお導きだわね」

「何が？」

「神さまが空けといてくれたのよ」



「何を？」

「あたしの座る席を」

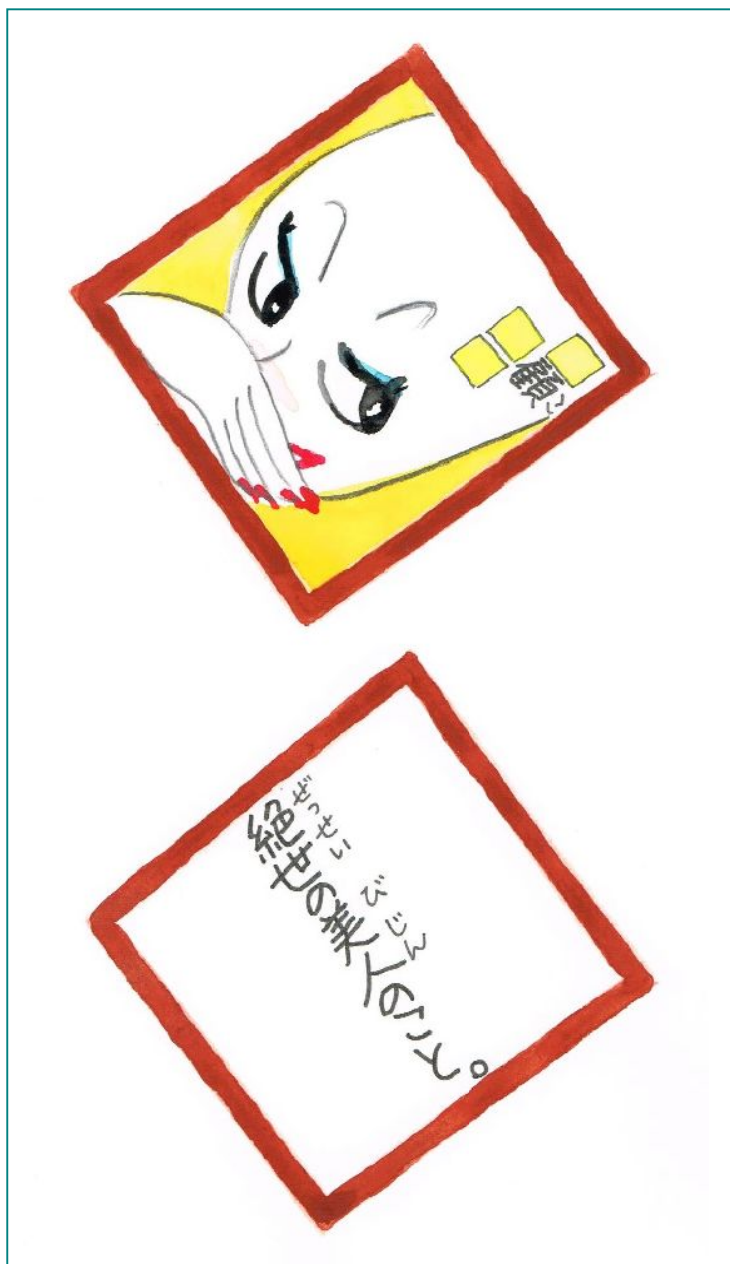
豪華な結婚披露宴の会場。沢山の来賓客が見守る中、新郎ヒネ勝の隣の主婦の席にエスコートする蝶ネクタイのボーイ。友子さんが座るその席は幸せが永遠につづく指定席……。

同想同夢の父親は、「こんどこそまちがいないな」「一件落着よ」と手を取り合った。

「おっ、寄せ鍋」

半年後、友子さんは意気揚揚と4度目の出戻りをした。

今週の問題



□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。